

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No.54 2011.9.15

第6号(24年10月号)から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で62年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

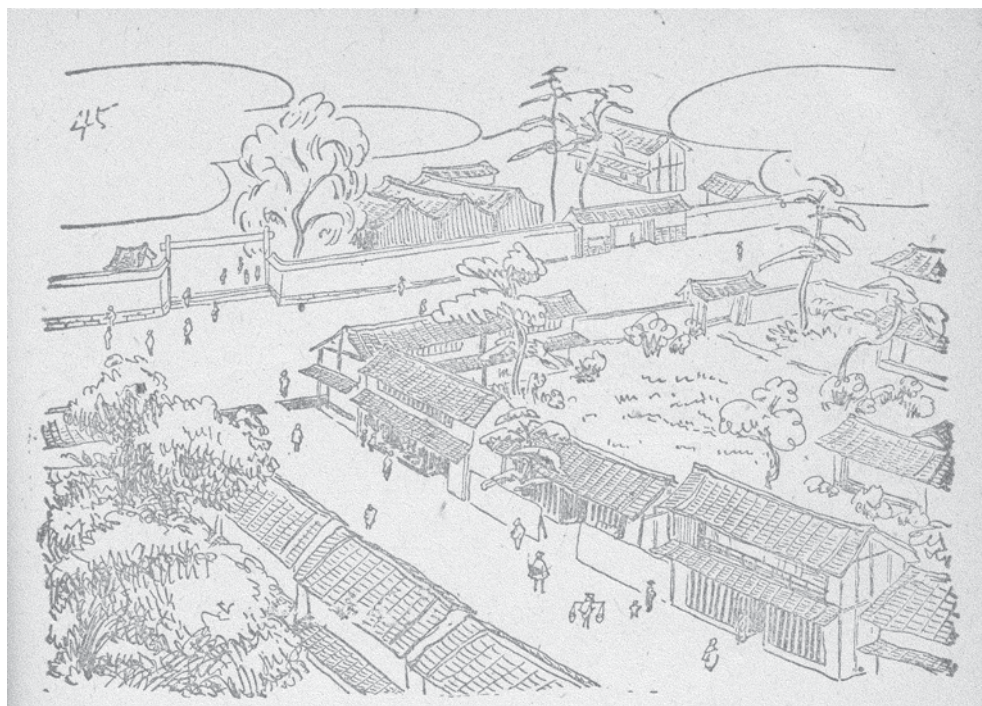
五十年前の秋の大祭

梶本宗太郎(談)

五十年前の、秋の大祭の話をしろというのですか。いや、もう何分記憶がうすらいでいますかねえ。五十年前というと、明治何年? ああ三十三年ですか。すると私の二十一年の時ですねえ。あの年は、二月に九州の長崎に布教に行った年ですが、ええ、なんですって、そりゃ、随分、当時は今と変わっていますよ。ちよつと想像がつかんでしょう。汽車は勿論ありました。駅の間所も今とちがっていませんが、第一、神殿が小さかったですよ。神苑も、勿論ありませんでした。兎も角、十年祭が明治二十九年ですか。十年祭に、神殿を大きくしようという話がおこったんですが、神殿よりも「帰ってくる子をらくにせよ」という神様のお言葉で、まず詰所の建築が先にはじまったのです。三十三年には、だから古い教会の郡山とか、

北とか、櫻井の詰所はできていました。ただ場所が違いま

理駅へかけて、あの一帯は人家が少し点在していただけで、ずっと野っ原で、それに竹藪が多くて、夜になると随分蚊が多く、袋ですくうと一杯に



した。勿論本通りなんかなし、あそこから今の電車の天

なった位でした。そして今の東本の詰所、あすこの辺には、

よく追いはぎがでたものでした。詰所がずっと並んでいたのは、今の南礼拝殿、あそここの門の前を南北に走っている道の両側に、ずっとありました。家並もあそこが一番たてこんでいたでしょう。だから本通りよりも、今の三島西門通りの方がずっと人家がありました。神具屋もあつたし、秋の大祭には、今のように店屋が出ましたよ。

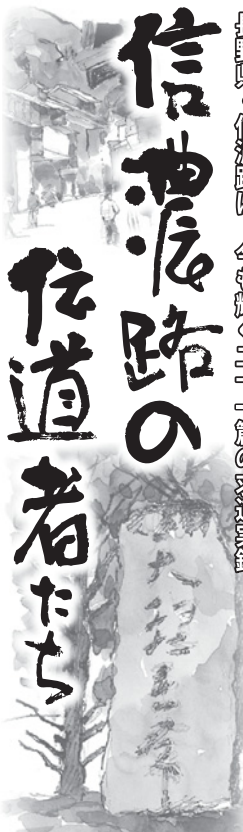
団参は、当時はまだ教会数も少なかったから、ありませんでした。しかし人手は相当なものでした。というのは、先にお話したように神殿は小さく、通りの道幅も狭いから、今の人手でなくても、少しの人手でも一杯になりました。

宿屋ですか? 宿は勿論詰所、もっとも当時は出来たばかりで、今のように大きくありませんし、数も少なかったから、はみ出た人や、詰所のまだない教会のために、宿屋がありました。やはり南礼拝殿前の

梶本宗太郎(かじもと・そうたろう)

明治13年(1880)〜昭和30年(1955)

本部長 初代真柱の甥。鍛冶惣分教会初代会長



長野県・信濃路に、今も輝く「探道者」の求道記録

信曲の路の探道者たち

編者 支庁事務局長 野村 天理
頁数 224頁 並装 四六判
定価 1,260円 (税別)

出版社 養徳社
〒388-0001 天理市川原城町388
TEL (0743)62-4503
http://yotokusha.com/

通りに、村田慶蔵さんのやっていた宿屋と、中山重吉さんの宿屋とがありました。両方も秋の大祭には、ぎっしり満員でした。

夜になるとやはり提灯がたてられました。何しろ狭い神殿の中に一杯たったんですから、わずかに通れる道があるぐらいでしたねえ。

祭典は十時半からひるの一時半まででした。昔は紋付でなく装束で、今の通り立って勤めました。ただ変っているのは、今は場所が少し低い所で勤めますが、昔は甘露台と同じ高さで、お勤めしていても外がよく見通せました。

兎も角お話しても、少し想像がつかんでしょうが、神殿は小さくて、棟と棟との間があいていて、雨でも降ろうものなら、すぐにあわてて見なければならなかったのです。当時郡山の詰所が一番大きく、場所は今のところ



ですが、ええ、あすこから向うは、先に言ったように野っ原だからよく知らない人はあすこまでくると、ああこれが天理教の本部かとよく間違えました。そうですねえ、外に変わった

ところといえば本通りの石上の燈籠は、あれは古い。あれは野っ原の真中にありました。それからずっとあの道に、郡山の鹿谷重平という人が、燈籠を寄進して、それがずっと

並んでいました。夜になると火がはいります。

参拝の信者さんは、当時はまだ世界がおみちをあまり知らなかったときですから、やはり、ただのお参りの人よりも、不思議な御守護を頂いた

食後の話題

佐世保

いまだき、裸生活も別に珍しくないが、佐世保市皆瀬町菰田の水源地裏の「ほら穴」に丸ハダカの原始生活をしている黒川幸太郎(六四)。この界隈じゃ昭和のガンクツ王と人気者だったが、この間雨があまり降るので附近のお百姓さんから、ミノを借りうけ、ぬれた体をたき火で暖めていたところ、ミノに火がうつって大やけど。近所の人に発見され、やっとこさ市民病院に運びこまれどうやら生命に別状はなかったが、診察がすんだあと、このガンクツ王「や

人が多かったのです。人が多くなつたのは、神殿が大きくなつてからです。まあ、そんなところですか。なにしろ、五十年といえば、随分昔だからねえ。思い出せないことが多いよ。

〔国内トピック〕

つばり、ハダカでおればよかつたですバイ」

名古屋

名だいのお城もスツカリ焼けてしまったが、このほど、この名城の石垣を、宵闇にまぎれてロープをはり、巧みによじのぼってゆく五人組の男を中署の署員がみつつけて「サテコソ、なにはなくとも集団窃盗の一味か」とばかり、勢いこんでとりおさえた。

ところが、ナント調べてみると中部山岳連盟の連中がロツク・クライミングの練習をしていたものとわかって、名城管理所では大憤慨「風致地区を荒らすとは何ごとぞ」というわけで、住居侵入罪で訴えた。結局一同、さんざんアブラをしぼられた上、書類送検と相成ったが、とんだスリルを味わって、山の猛者もシヨンぼりしているとか。

養徳社 よもやま話

○……今年の夏、夫と信州へ旅行した時のこと。

高原地帯を車で走っていると、見渡す限りの桃畑が広がっていた。どの木にもピンク色に色づいた実がたわわになっており、それは壮観な景色。写真に収めようと車を停めてもらい、道路脇の桃の木を撮影していると、突然ガードレールからはみ出した大枝が、鈴なりの桃の重さに耐えきれず、バキバキと目の前で折れた。

「李下にカメラを構えず」(?) 桃泥棒に間違えられないかと辺りを見回し、足早に立ち去った。しかし内心、あのおいしそうな桃の実を一つもいであたった。それから数日後、信州から桃が送られてきた。私の心を見透かされたようで、ドキッとした。○……先月、石巻での取材帰り。仙台駅で乗換え時、五十段はある階段を二段飛ばしに駆け上がった。発作的に起こる、体力維持のための私の癖。座席についてから即発車! これぞご守護とニンマリ、噴出す汗をふいた。

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。お願いします。お願ひ申し上げます。

養徳社